

冬場の省エネ～暖房対策がポイントです～

■ 冬場は暖房の CO₂ 排出量が多くなる

年間を通じて CO₂ 排出量が多いのはお風呂(給湯)、続いて家電製品になりますが、冬場に限ると暖房の割合が多くなります。

右グラフは、1月の暖房の CO₂ 排出量割合を示したもので、戸建てで 45.9%、集合 35.4% になって、給湯を上回っています。

なお、集合より戸建てが暖房の CO₂ 排出割合が多くなるのは、戸建ては、側面と上下が外部となり、部屋の熱が抜けていくのに対し、集合は、側面と上下で隣の部屋と熱を共有できるためです。

■ 窓の断熱がカギを握る

部屋の暖気は、屋根、床、側壁などから逃げていきますが、一番多く逃げるのは窓になりますので、窓の断熱対策を優先して行った方が良いでしょう。

夜間雨戸を閉めるだけで効果を実感でき、また、最近では、既存の窓枠でも比較的安価にペアガラスに変えられるものもあります。

晴れた日は、太陽の熱を部屋に取り入れ、暖まった熱を逃がさないようにカーテンを閉めるのも策です。

■ 部分暖房を組み合わせる

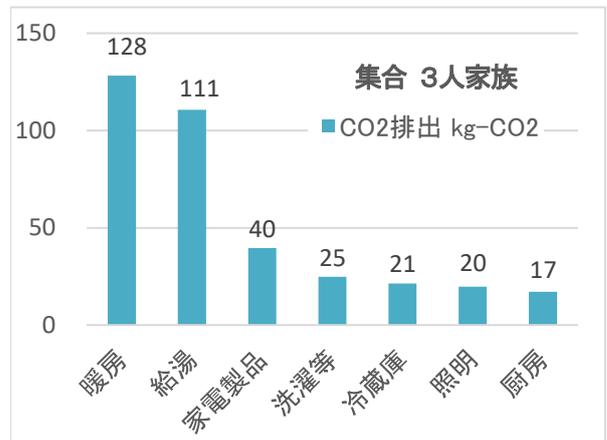
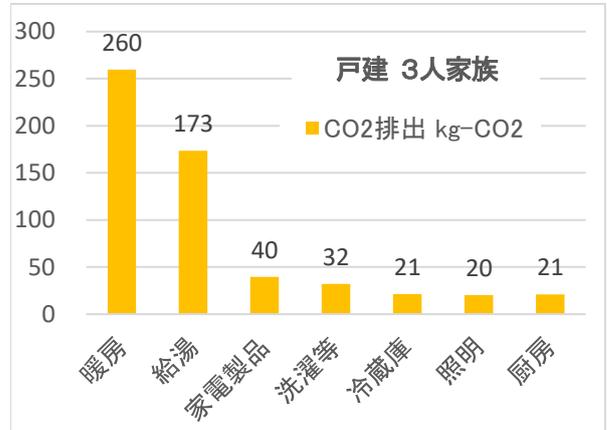
エアコンやストーブで部屋を暖めますが、こたつや電気カーペットなどの部分暖房を組み合わせることで、部屋の温度設定を下げる事ができるために、僅かではありますが省エネにつながります。

■ 家族が出来るだけ同じ部屋で過ごす

家族が、それぞれの部屋を暖めると、部屋の数が増えるだけ暖房による CO₂ が排出されることとなります。

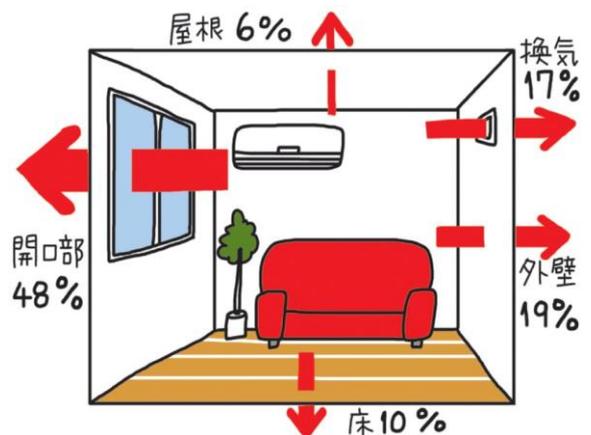
月並みな言い方にはなりますが、冷房にせよ暖房にせよ、家族でシェア(共有)していくことが鉄則になります。本当は、公共の場などで“ウォームビズ”すれば良いのですが、コロナ禍の中では断念せざるを得ません。

1月の部門別 CO₂ 排出量割合



※ 出典：生協ひろしま家計簿モニターデータ及び省エネトライアルデータをもとに作成

部屋の暖気の半分は窓から逃げる



※ 出典：(社)日本建材産業協会省エネルギー建材普及センター